

あなたの**病気が治らない**のには
理由があります。

十字屋平蔵薬局
薬剤師 富居博典

01 いつまでも病気が治らない・・・ このようなお悩みを抱えている方へ



これまで多くの方法を試したのに症状が改善しないとお悩みではありませんか？ 深刻な病気や症状の悩みの中にある方にとって、病状が改善しないことは大きなストレスとなります。あそこの先生が良いと言われれば、それまでの治療を止めてまた別の医療機関へと足を運ぶ。まさに「藁をもつかむ思い」です。私はそのようなケースに何度も出くわしてきました。

いつまでも改善しなければ、次第に「なぜ、こんな病気になったのだろう？」「もう治らないのでは……」と考え込んでしまうことでしょう。そのお気持ちはよくわかります。

しかし、あきらめないでください。症状が治らないのには理由があるという事を知っていただききたいのです。

02 様々な方法を試しているのに なぜ、病気が改善しないのか？

なぜ、多くの方が様々な方法を試しているにもかかわらず症状の改善が見られないのか？ その理由を一つずつ解説していきます。

2-1. 病院での治療

病院で検査をしても異常はない？



私自身、薬剤師としての最初の職場は地域の救急指定病院でした。医師をはじめ、看護師・検査技師・理学療法士・栄養士・医療ソーシャルワーカーなど、チームで患者さんを支えている現実を肌で学びました。深刻な病気やけがであっても手術など治療を経て元気になられれば、こちらも本当にうれしいものです。

しかし、当然ながら全員が良くなるわけではありません。言いようもない痛みや不安を抱えながら通院し続けている方、血液やレントゲン・CTなどの検査をしても特段異常がなく、原因が分からないまま悶々としている方などです。痛ければ痛み止め、不安だから抗不安薬、痒いか

ら抗アレルギー剤と、いつまでこの治療が続くのだろうかという疑問を感じている方も多くいらっしゃいます。

当時、病院薬剤師として働いていた私に突きつけられた現実がそれでした。医師の治療、処方通りに薬を服用すれば病気は治るものだと考えていました。しかし、実際のところは薬が治してくれるのではなく、結局は患者さん自身のからだに病気を治すのだと知ったのです。八方手を尽くしても治らないのは治す力が足りないから治らないのだと考えるようになりました。

患部を手当しても治らない？

からだの痛みや違和感など、どうしても患部ばかりに目を奪われてしまいますが、人間のからだは自動車の部品交換のようにその部位を手当しても良くなりません。からだは様々な器官と免疫や自律神経系、ホルモンなど絶妙なバランスを相互に保っています。体力を落としている方などは特に患部だけ手当てしても治らないケースが多くあります。

たとえば肩こりで悩んでいたとします。その場合マッサージを受けてほぐしたり、病院ではミオナールやテルネリンなどの筋弛緩剤がよく処方されますが、その原因が胃腸など内臓の不調やストレス、更年期などホルモンのアンバランス、体力や筋力の低下・冷えなどが原因だとすれば的外れとなってしまいます。

強い薬を飲むのは逆効果？

抗がん剤や抗生物質に代表される化学療法剤は確かに作用が強く病巣に強く働きます。ただ副作用も強く、からだの免疫機能を低下させてしまったり、体調を崩してしまったりする方もいらっしゃいます。病原菌は死滅しても常在菌や体の免疫機能までダメージを受けることもしばしばです。これでは治るものも治りません。

2-2. 市販薬

市販薬では根本的な原因は解決しない



OTC医薬品（市販薬）の多くは出ている症状を緩和させるのが目的となります。ですから、吐き気のために吐き気止め、あるいは胃腸薬を購入するということになるでしょう。しかし、その原因としては、自律神経の乱れ・ホルモンの影響・内臓の代謝障害やめまいなどの耳鼻科系の疾患など、様々なことが考えられます。ファーストチョイスとしては良いかもしれませんが、対症療法であるため、根本的な原因が解消されないままこじれて慢性化して

しまうことも考えられます。また、OTC医薬品には効き目がシャープな商品もあり副作用も心配です。改善が診られない場合は医師の受診をお勧めいたします。

OTC（over the counter）医薬品とは医師の処方箋でなく薬局やドラッグストアで気軽に購入することができる医薬品のことで、これまで市販薬と言われてきたものです。大きく要指導医薬品と一般用医薬品に二分され、大手のドラッグストアでは、咳止めなどの風邪薬や頭痛薬・胃腸薬・湿布薬や軟膏・点眼薬など、漢方薬も含め品揃えが良く、消費者の判断で手軽に購入が可能となりました。

OTC 医薬品分類		対応する専門家	お客様絵の説明	相談への対応	通信販売
要指導医薬品		薬剤師	書面での情報提供（義務）	義務	不可
一般用医薬品	第1類医薬品				薬剤師または登録販売者
	第1類医薬品	法律上の規定なし			
	第1類医薬品				

また、漢方薬の多くはリスク分類が第2類ですが当店では対面販売が原則だと考えています。法律上はインターネットでも購入は可能ですが、症状体質などに合った商品はインターネットではなく対面販売がより適切に判断できるものと考えます。

2-3. サプリメント

科学的なエビデンスが不明なもの多い



サプリメント・健康食品市場は依然拡大傾向にあります。たとえば、グルコサミンに代表される商品も詳しく調べたわけではありませんが、何十社も発売しています。果たして期待した結果が得られるのか、実のところ私はよくわかりませんが……。メーカーの知名度だけではなくしっかりとした目で商品を選ぶ必要があります。

商品の原料・製造法はどうか、エビデンスはどうか、そもそもどういう会社なのか……。また、そもそもサプリメントや健康食品は健康を維持するためのものであり、病気を治すものではないことを忘れてはなりません。

2-4. 漢方薬

自分に合った漢方でなければ効果がないことも



今や漢方薬は多くの方に認知され、病院だけでなくドラッグストアや整骨院・鍼灸院でも手に入る時代となりました。だれもがご存知のツムラやクラシエ・小太郎漢方製薬から、東洋薬行・イスクラ製薬・剤盛堂薬品・松浦製薬・ジェーピーエス製薬・三和生薬など、漢方薬メーカーも豊富です。「補腎薬が豊富なイスクラ製薬」「附子剤の三和生薬」「産地にこだわりの東洋薬行」など、それぞれのメーカーが特色を持っており、商品も

安価なものから高価で高品質なものまで多種多様に存在しています。

このように選択肢が多い一方、自分に合った漢方を選ぶのが難しいというのも事実です。これまで漢方薬を試したにもかかわらず効果が得られなかったという方は、不運にも自分に合っていない漢方薬を服用してしまったことが考えられます。実際、選び方が悪かったために自分に漢方薬は体質的に合わないと誤解している方も多いのです。

03 根本的な治療を目指す方に 漢方薬をおすすめする理由

これまでさまざまな方法を試したにもかかわらず一向に症状が改善しないという方に対して私がおすすめするのは、やはり漢方薬です。もちろん、漢方薬だけですべての病気や症状が期待したようにすぐに良くなるわけではありません。しかし、だからといって漢方薬は効かないのか？ ただの気休めなのか？と言われれば、決してそんなことはありません。そこで、私が漢方薬をおすすめする3つの理由を紹介します。

3-1. 歴史上、様々な臨床が繰り返されてきた

千年、二千年来と多くの人々に支持され、愛飲されてきた漢方薬です。漢方薬の効果は歴史が証しするところであり、現在でも漢方薬がなければ助からない命がたくさんあります。からだには恒常性維持（ホメオスタシス）の働きが備わっています。適切な養生と体質に合った漢方薬は、病状の回復を助け、さらに予防することが可能なのです。

3-2. 内側から補って改善する



すべての病気の原因がわかっているわけではありませんが、様々な治療を試みた後来店される方にはパターンがあり、それぞれに原因があると感じています。最初からその原因はわからないにしても、漢方薬の服用によりある部分が改善すれば、体質や発症の理由がつかめてくるものです。試行錯誤のなかで、お一人おひとりに合った漢方薬と養生も徐々にはっきりしてくるのです。

漢方薬は天然の生薬を組み合わせた内容ですが温めたり、引き上げたり、補う働きが生薬が多数あります。残念ながら化学的な医薬品にはあまりない作用です。ですから、体力を落としている方や慢性症状の方、高齢の方にはあきらめずに是非とも漢方薬をお飲みいただきたいのです。

3-3. からだが治ろうとする力を助ける

私にとって思い出深い症例の一つですが、ある70代のKさんですが、事故以来肩の痛みが取れず何とか痛みを取ってほしいと言ってご来店になりました。すでに病院では鎮痛剤も服用していましたが、一向に痛みは消えず衣服の脱着も難儀していました。こちらで試行錯誤して漢方薬をお渡ししましたが、後にご本人から電話が

掛かってきて、痛みが消えたと言います。どんな痛み止めだったのかと問われましたが、痛み止めではなく自律神経のバランスをとる漢方薬であることを説明したところ、驚きと同時に納得された経験があります。「痛いから痛み止めを飲む」は治療として納得できますが、実際それ程からでは単純ではありません。

今でこそテレビで神経疼痛性障害のコマーシャルもあり多くの方がそのメカニズムを知るところですが、要は患部だけを見ていると身体は治りません。からだ全体も観察することが大切です。木を見て森を見る要領です。同じようなことが婦人科系疾患やめまいなどの耳鼻科系疾患・胃腸症状・皮膚症状などにも見られます。ですから、胃腸症状とニキビが一緒に改善したり、めまいと不安神経症あるいは冷えと腰痛が同時に改善したりするなども珍しいことではないのです。お客様にとって一挙両得と言えるでしょう。

04 自分で選ぶのは難しい？ 漢方薬を専門家に選んでもらうべき理由

私が本格的に漢方薬の勉強を始めたのが1997年頃からです。漢方薬は奥が深く学んでも学んでも学びきれものではありません。医療に携わる医師であっても、薬剤師であっても漢方薬に理解のない方もたくさんいます。何を隠そう私自身病院や調剤薬局で処方箋を応需していた当時は漢方薬に大きな誤解がありました。ましてや一般の方にはどの漢方薬が良いかは判断が付きづらいものです。

東洋医学では一人ひとりの状態を証というものさしで捉えます。たとえば虚弱な虚証なのか力強い実証なのか、熱を帯びた熱証なのか冷えた寒証なのかと言った具合です。ところが、厄介なことに虚と実や寒と熱が入り混じった状態が多く見受けられ、ご自身では判断がつかないことがしばしばです。冷え症体質でも胃炎や便秘で胃腸が熱証ということはよくあり、教科書通りにはいかないのです。『餅は餅屋』と言いますが、専門家に任せるのが一番です。お悩みの方は漢方薬のプロフェッショナルにお任せください。

05 誰に相談するかも重要！ 相談先を選ぶときに大切な4つのポイント

だれもが自分の症状と体質にぴったり合った漢方薬を探しています。どうすれば効果的な漢方薬を手に入れることができるでしょうか。当店では以下の4つのポイントが大切だと考えています。

5-1. 直接お会いすることが大切です

今やインターネットで簡単にものを手に入れることのできる時代です。漢方薬もそのような方法で安易に購入することが可能です。しかし当店ではお一人ひとりの発症や治療の経緯、経過、顔色や体力の程度など東洋医学の視点で直接対面で確認してから商品を販売することを原則にしています。その方がより正しく漢方薬を提供できると考えます。

5-2. 医療気功も駆使し状態を把握する

症状と体質にあった漢方薬を気功でも確認しています。「症状を気功（糸練功）で確認？」と不思議に思われるかもしれませんが、確かに現代科学で解明されていないだけに怪しく思われるかもしれませんが、解明されていないだけで、そこにも真理が隠されていると考えます。

当店において気功はあくまでも判断材料の一つとして捉えており、お客様とのカウンセリングから得られる情報も合わせて総合的に判断するやり方です。日々研鑽の毎日ですが、できるだけお客様に必要な漢方薬をご提供できるように励んでおります。

5-3. 漢方薬に対する専門的知識と経験

漢方薬の取り扱いには主に医師や薬剤師、登録販売者になります。漢方薬を提供する上で医薬品や病気に対する正確な情報や判断が求められます。取り分け漢方薬は知識と経験がものをいう世界です。当店は2001年以来、漢方相談を専門とする薬剤師、薬のスペシャリストとして、現代医学の知識と主に古方や中医学に立脚した考え方で病状をとらえ漢方薬を選薬しています。

5-4. 信頼関係が大切です

十字屋平蔵薬局は東京と埼玉の県境に位置しており、西東京市・新座市・東久留米市・練馬区を中心に首都圏のお客様に多くご利用いただけてきました。落ち着いた店内で、ゆっくりとくつろいだ雰囲気でのカウンセリングが受けられます。

店主はドラマにある鬼の平蔵ではありません。まじめでちょっと不器用で信頼できるキャラクターだと評価を頂いております。ご安心ください。しかしながらお互いにぎくしゃくしてはこちらも緊張してしまいますし、逆に本気で信頼してくだされば、こちらも本気になります。

漢方薬さえ飲めれば他は関係ないと言うものではありません。これまでの経験から漢方薬を通してお客様と心が繋がっていると思えば、よりよい結果が得られると考えます。

06 早期回復のためにも 早めの漢方治療が重要！

からだの不調が長期化すると精神的にも元気を失い、前向きになれないものです。それがさらに症状改善を困難にしてしまうケースがあります。そのような悪循環から脱出するためにも症状を放置するのではなく、できるだけ早く漢方薬を服用していただく事をお勧めいたします。

6-1. 症状を放置すれば放置するほど治療に時間がかかる

たとえば、睡眠薬や安定剤・鎮痛消炎剤などの化学薬品は対処療法であり一時的ですがすぐに効果が表れます。数か月服用して効果があらわれるものではありません。一方で漢方薬は症状にもよりますが慢性疾患の場合は、症状だけでなく体質面も含めより深く根本的に作用する分、効果がでるまでに時間を要する傾向にあります。ですから、焦らずに継続して服用する必要があります。とは言っても、お客様の生活環境や養生なども再確認しつつ、一日も早く、少しでも改善していただくよう取り組んでいます。

07 まずはお気軽に 無料相談をお申し込みください

当店ではできるだけお客様の立場になって考え、漢方薬を提案しております。漢方薬局はちょっと敷居が高く、入りにくいと感じる方もいらっしゃいますが、一人で考えていても治りません。どうぞお気軽にご相談ください。押し付けは一切ございませんのでご安心ください。

下記URLの無料相談お申し込みフォームよりご相談を受け付けております。必要事項をご記入の上、送信してください。

<https://www.jujiya-kanpo.com/無料相談お申し込み.html>

お電話でのご相談も受け付けております。下記フリーダイヤルまでお気軽にお電話ください。

フリーダイヤル：0120-982-566

受付時間；平日 10:00～19:00・土曜日 10:00～17:00（日曜・祝日を除く）

（関東地域外からのお問い合わせは 042-438-8482 までお願いします。）